

PD 関連腹膜炎への取り組み

東京女子医科大学 看護部¹ 腎臓内科² 血液浄化療法科³

○廣川牧子¹(ヒロカワ マキコ) 星井英里¹ 勝村広美¹ 宮川万裕子¹ 樋口朋子¹ 大橋信子¹
塚田三佐緒² 秋葉隆³

【目的】

腹膜透析(以下 PD)を継続するうえで腹膜炎感染症の予防は大変重要である。当院 PD 外来患者では、PD 導入期より腹膜炎予防に取り組み、患者指導を実施しているため報告する。

【方法】

PD 導入の入院時に PD 外来を受診し、パンフレットを用いて腹膜炎予防の指導をしている。PD 外来時、定期的に腹膜炎感染症について知識の確認テストを実施している。腹膜平衡試験(PET)を PD 外来で行うようにし、バッグ交換手技に不潔操作がないか確認している。

【結果】

腹膜炎を発症した患者は、自己流にバッグ交換手技をアレンジしたり、清潔操作手技を適当に行っていた。再度、腹膜炎について説明し、腹膜炎になると PD 継続期間が短くなるリスクを説明し、正しく基本手技を行うように指導した。

当院 PD 外来の 2011 年の腹膜炎発症率は、成人(31 名)が 1 回/23.1 患者月であり、国際腹膜透析学会ガイドラインが示している 1 回/18 患者月を達成しているが、高率であった。腹膜炎予防の指導に取り組み、2012 年の腹膜炎発症率は、成人(35 名)が 1 回/70.5 患者月に改善した。

【結語】

PD 歴に関わらず、定期的に腹膜炎予防の指導を行い、継続的に関わっていくことが重要である。